

わたしたちにできる防災

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

課題発見・解決力

自己理解・自らへの自信

1 単元について

(1) 生徒観

本学年の生徒は、1学年の総合的な学習の時間において、「坂町の魅力度UP大作戦」と題し、「坂町の魅力を外に向けて発信し、坂町の人口アップにつなげる」という取組を行っている。その中で、調査やプレゼンテーション資料の作成・発表など、様々な活動を行ってきた。全体として、アイディアにあふれ、課題に対して前向きに取り組むことのできる集団である。

また、本学年の生徒は、平成31年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、「今住んでいる地域の行事に参加している。」に対する肯定的回答が70.1%と、県平均を14.7%上回っている。しかし一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」に対する肯定的回答は47.6%と、県平均をわずかに0.7%上回るのみにとどまっている。地域と密接に関わる生徒の割合に比べ、地域のために貢献をしようと思っている生徒の割合は期待されるほど多くない。つまり、生徒たちには、「自分が地域の未来の担い手である」という自負が希薄であると言える。これらのことから、本学年の生徒には、もっと積極的に地域に関わり、地域の課題の解決に向け行動できる主体性が必要であると考えられる。

(2) 単元観

本単元は、「自らの経験や調査をもとに防災の課題を見つけ、その課題の解決に向け積極的に活動することを通して、有事の際、自分だけでなく、他者の命を守る行動がとれるようになる。」ことを目標に設定している。

坂中学校では、例年、3学年の総合的な学習の時間において、「防災」をテーマとした学習に取り組んでいるが、昨年の災害を受け、今年度は授業で「防災」を取り扱うかどうかということ一度検討した。災害後から定期的に実施している「心と体の振り返りシート」の結果からは、気持ちが不安定な生徒が一定数いることが明白になっており、「防災」を取り扱うことに拒否反応を示す生徒がいるのではないかとこの危惧もあったからである。しかし、坂町では過去にも大規模な水害が起こっており、この町に暮らす限り、また、自分の大切な家族がこの町に住む限り、「防災」について考えないわけにはいかない。また、昨今予想もつかない大災害が日本各地で起こっており、どこに住んでいたとしても、「防災」に関する知識やスキルは必要不可欠であると考えられる。自分自身はもちろん、家族や地域の人々の命を守ることでできる人になるためにも、本単元は重要な単元であると考えている。

(3) 指導観

指導に当たり、まず予備知識として、様々な災害について学ぶことから始めたい。災害というと、昨年の豪雨災害を思い浮かべる生徒も多いと思うが、その他の様々な災害についても学び、身の回りでいつどんな大きな災害が起こってもおかしくないという危機感をもたせて学習に入ること、課題を自分ごととしてとらえさせ、主体的な学びを引き出させることが期待できる。また、災害の種類によっては、災害後取るべき行動が変わってくるということにも気付かせたい。次に、災害時に必要となるコミュニケーション能力や判断力など、グループワークを通して学ばせたい。グループで協力しながら課題を解決することで、防災は知識だけで可能になるものではないということを体感することが可能であると考え。その後、地域に目を向け、防災の課題を生徒たち自身で見出し、解決に向けて活動させる。調査活動では、新聞やテレビ、インターネット等を活用して情報を収集する以外にも、地域の方や専門家の方などの話を聞かせていただいたり、実際に調べたい場所に出向いたり、偏りなく情報を収集する方法を考えさせたい。

また、単元を通して他者意識を持たせ、「どのような場面でどんな相手に何のために表現するのか」ということをしっかり考えさせたい。同じ内容を伝える場合でも、相手によっては表現の仕方が異なるということを、国語等の教科の授業で学習したことを生かせるよう指導していきたい。

2 単元目標

自らの経験や調査をもとに防災の課題を見つけ、その課題の解決に向け積極的に活動することを通して、有事の際、自分だけでなく他者の命を守る行動をとれるようになる。

3 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性	
			自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
評価規準	○様々な災害や防災について理解することができる。 ○コンピュータを用いて、文書やプレゼンテーション資料などを効果的に作成することができる。	○災害や防災について学んだことから、現代の防災の課題について考えることができる。 ○防災の課題を解決するために、どのような方法を用いて何を行えばよいかを考えることができる。	○発表やプレゼンテーションの際、相手意識を持って、分かりやすく伝えることができる。 ○活動を通して、自分が坂町の未来の担い手であることに気付き、地域の一員であることに誇りをもつことができる。	○課題解決にあたり、他者と協働しながら積極的に取り組むことができる。 ○校外や地域の方とコミュニケーションをとりながら活動ができる。

4 他教科等との関連

国語科	社会科	数学科	理科	技術科
「間違いやすい敬語」 「編集して伝えよう」 「観察・分析して論じよう」 「目的や相手に応じて説明しよう」	「自然災害と防災への取り組み」 「多様な環境と環境保全の取り組み」 「持続可能な社会に向けて」	「資料の活用」 「標本調査」	「天気とその変化」 「大地の変化」 「自然の恵みと災害」	「未来の技術についてレポートを作成しよう」

5 指導と評価の計画 (40 時間 本時 35 / 40 時間)

探究の過程	時間	主な学習内容 ☆自他を意識させるための指導の工夫	評価規準及び評価方法
課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・創造・表現 課題設定	16	○単元ガイダンスでめあてとゴールを知り、学習の見通しをもつ。(1) ○防災への意識を高めるために、DVD 教材や講話を通して情報を収集する。(6) ○災害が起きた時に必要となるスキルを、グループワークを通して学ぶ。(3) ○収集した情報を整理し、防災の課題について考え、「防災新聞」にまとめる。(2) ○「防災新聞」を参考に、グループごとに取組課題を検討し、企画書を作成する。企画書を発表し、クラスでの取組課題を決定する。(2) ○課題解決に向け必要な活動を考え、活動計画を立てる。(2)	・様々な災害や防災について理解することができる。(ワークシート、振り返り) ・災害や防災について学んだことから、現代の防災の課題について考えることができる。(防災新聞、企画書、振り返り)
情報収集 整理・分析	12	○課題解決に向け、グループごとに調査活動を行う。 ・お年寄りの防災に対する意識調査を行う。(聞き取り・アンケート) ・ハザードマップをもとに避難路を確認する。 ・役場と連携し、町内の危険箇所を実際に歩く。 ・災害時に役立つ技術を調査する。 ・お年寄りが避難所に行かない理由や、避難が遅れる理由を調査する。 ・避難に必要な道具(防災グッズ)を調査する。 ・ペットのための防災グッズについて調査する。 ・防災食・非常食について調査する。 ・町内のお年寄りに関する情報を収集する。	・防災の課題を解決するために、どのような方法を用いて、何を行えばよいか考えることができる。(活動の様子、振り返り) ・校外や地域の方とコミュニケーションをとりながら活動ができる。(活動の様子、振り返り)
整理・分析 まとめ・創造・表現 課題設定	8	○防災講座に向け準備する。 ・グループごとに調査結果を整理・分析し、講座で発表する内容をまとめる。 ・まとめ(第一案)をグループごとに発表する。 ・内容について学級全体で検討し、改善策について話し合う。 ・第一案を改善し、発表内容を固める。 (本時 7 / 8)	・課題解決にあたり、他者と協働しながら積極的に取り組むことができる。(活動の様子、振り返り)
実行 振り返り	4	○地域のお年寄りの集まりに出向き、防災講座を開催する。(2) ①避難の重要性を説明する。 ②災害ごとに避難場所や経路を記したチェックシートと一緒に作成する。 ③防災グッズ・ペット用防災グッズのチェックリストに記入する。 ④「お年寄り SOS カード」を配布する。 ○活動の振り返りを行う。(2)	・発表やプレゼンテーションの際、相手意識を持って、分かりやすく伝えることができる。(成果物、発表の様子、振り返り) ・活動を通して、自分が坂町の未来の担い手であることに気付き、地域の一員であることに誇りをもつことができる。(振り返り)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

防災講座で発表する内容をお互いに評価し、改善につなげることができる。

(2) 本時の展開 (本時 35/40)

	学習活動	指導上の留意事項 (・) 配慮を要する生徒への支援 (◆)	資質・能力 (評価方法)
導入	1 本時のめあてと、授業の流れを確認する。		
	めあて：防災講座で発表する内容をお互いに評価し、改善につなげることができる。		
展開	2 各グループが防災講座で発表する内容を相互評価する。 (個人思考5分、グループ5分)	・「『お年寄りの命を守る』という目的を達成するのにふさわしい内容かどうか」という観点で評価する。 ・良い点は青の付箋、課題はピンクの付箋に記入する。(「何が」「どのように」よいのか、あるいは課題なのかということを明確にさせる。) ・グループの意見を、1枚の評価シートにまとめる。	
	3 評価シートをもとに、自分たちの発表の良い点と課題を分析し、改善点を考える。	・各グループから出された評価シートの内容を比較したり分類したりしながら、良い点と課題点を発表用シートにまとめる。 ・課題点については、どうしたら改善できるかということを併せて考える。 ・改善点が思いつかない場合は、ほかのグループに尋ねる機会を与える。	・課題解決にあたり、他者と協働しながら積極的に取り組むことができる。
	4 考えた改善点を発表する。	・課題点と改善点に絞って発表する。	(活動の様子、振り返り)
振り返り	5 振り返りをする。	自他を意識した振り返り	
	【振り返り例】 ○災害が起こってから避難するまでにかかる時間を年代別に紹介していたが、お年寄りに対して紹介するのであれば、全ての年代を載せる必要がないということに気付いた。大事な部分だけを伝える方がわかりやすいと思うので改善したい。 ○大切な情報がたくさんあるので、必要だと思うものは全て載せたが、お年寄りはたくさんの情報から自分に必要なものを拾うことが難しいのではないか思った。 ○お年寄りのためだと思っていたことが、犯罪を手助けすることにつながるかもしれないと指摘され驚いた。でも、災害時にお年寄りを救うことができる取組だと思うので、方法を改善して実行したい。		
	6 次時の学習内容を確認する。		

7 準備物

評価シート、発表用シート、付箋、マジック

8 板書計画

めあて 防災講座で発表する内容をお互いに評価し、改善につなげることができる。

評価のポイント：「お年寄りの命を守る」という目的を達成するのにふさわしい内容かどうか。

〈授業の流れ〉	
1	めあての確認
2	各グループの発表内容の評価
3	改善点の検討
4	改善点の発表
5	振り返り

課題点	改善点
	

課題点	改善点
	

課題点	改善点
	

課題点	改善点
	

課題点	改善点
	

課題点	改善点
	